

穏やかな日差しが校庭の椿寒桜に降り注ぎ、早春の気配に包まれた今日の佳き日に、御来賓の方々、保護者の皆様をお迎えして、令和3年度愛媛県立新居浜西高等学校の卒業証書授与式を挙げていただけますことは、卒業生はもとより在校生、教職員にとりまして、大きな喜びでございます。本日、御臨席を賜りました皆様方には、巣立ちゆく卒業生の門出に花を添えていただき、誠にありがとうございます。心よりお礼を申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました二四八名の卒業生の皆さん、御卒業おめでとうでございます。コロナ禍の中、制限の多かった高校生活ではありましたが、伝統ある本校で学び、本校を巣立って行けることのすべてを誇りに思い、皆さん一人一人が描く未来へ羽ばたいて行ってほしいと思います。一方で、共に学び、支え合ってきた友人、皆さんのことを絶えず気遣い、育ててくださった御家族、そして、優しく教え導いてくださった先生方がいたことを忘れないでほしいと思います。感謝の気持ちを忘れず、これからの人生を力強く歩んでいってください。

新型コロナウイルス感染症の拡大が世の中を一変させました。人と人との付き合い方、学習の形態や学校の行事、ICTの活用など、過去には想像したこともなかった日常が、当たり前の日常となってきました。これから皆さんが進んでいく未来は予想し難い時代となるでしょう。しかし、そんな変化の激しい時代だからこそ、「昨日の自分があって、今の自分があり、そして、明日の自分がある」という当たり前の事実を胸に刻み、自分を見失わないでください。日々の積み重ねによって人生は形成されていくという真理、自分自身には自分の歴史があるのだという真実を大切にしてほしいと思います。

高校生という一つの時代に終わりを告げ、新しい世界に羽ばたいていく皆さんに、真壁仁の「峠」という詩を贈りたいと思います。峠道を想像しながら聞いてください。

峠は決定を強いるところだ。峠には別れのための明るい悲しみが流れている。峠道を上りつめたものは、のしかかってくる青空に身をさらし、やがてそれを背にする。風景はそこで綴じ合っているが、一つを失うことなしに、別の風景に入ってゆけない。大きな喪失に耐えてのみ、新しい世界が開ける。峠に立つとき、過ぎてきた道は懐かしく、開け来る道は楽しい。人はそこで、一つの世界に別れねばならぬ。その思いを埋めるために、旅人はゆっくり振り返ったり、摘み草をしたりして、見える限りの風景を眼におさめる。

人生の旅もまた同じです。人はいくつもの峠を越えて年を重ねます。峠を越える度にたくさんの人との別れがあり、新しい人との出会いがあります。ゆっくりと別れを惜しんだ峠もあれば、別れを惜しむこともなかった峠もあると思います。今日、皆さんは高校生という自分を失いますが、高校生活という過ぎ去った時代の思い出は、いつまでも皆さんの未来を支えてくれることでしょう。そして、母校の緑の校旗は、永遠に皆さんの人生を応援し続けてくれるに違いありません。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠にありがとうございます。教職員一同、心よりお喜びを申し上げます。また、今日まで本校にお寄せいただいた御支援、御協力に深く感謝申し上げます。

また、本日御多用の中、御臨席を賜りました御来賓の皆様、誠にありがとうございました。今後とも本校の教育に益々お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんが、「母校とは出身校という意味ですが、それだけではありません。読んで字の如く、『私を育ててくれた学校』のことです。私の母校は、新居浜西高です」と胸を張って言ってくれると信じながら、皆さん一人一人の幸せな人生をお祈り申し上げ、式辞と致します。

令和四年三月一日

愛媛県立新居浜西高等学校長 願成寺 優